

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		保育所等訪問支援事業所 しらかば			公表日	令和7年 3月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・ 整備・ 運営・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	2		・利用者の心の状態に合わせ、適切な教具、教材を使用している。結果、利用者が心を開き、質の高い療育が可能となっている。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2		・その子にとっての最善の利益とは、何なのか。最も重要なことと捉え、関わる職員の教育観についても、話し合う機会を作っている。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		・随時スタッフミーティングを行ない、職員の意見を共有する機会を設けている。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2		・利用者保護者、訪問先のみならず、行政の方々とも事業の様子を共有、報告しており、随時評価して頂いている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2		・職員の皆がよりよいサービスを提供出来る為に、外部及び内部の研修に参加している。	
適切な 支援の 提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		・個々の子ども自身の心や発達の状態と共に、利用者を取り巻く家庭や訪問先などの環境など、広い視野をもって適切なアセスメントを行っている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		・定期的に支援会議を行ない、訪問先の意向を確認し、連携して利用者へ寄り添っている。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2			
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2			
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2		・ガイドラインを読み込み、目の前の子どもの状態を適切にアセスメントした上で、具体的な支援内容を考えている。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2		・訪問支援者のリエゾン機能は、大事と思っている。その為に、子ども、保護者、訪問先の先生などに会う時、相手の事をよく聴くという事を、最も大切なことと捉えている。	

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2		・記録は、大切である。書きながら気づく事もあり、客観性や見取りを高める事にも繋がっている。ケースの流れも把握できる。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2		・家庭及び訪問先と連携、丁寧な聴き取りを重ね、都度利用者の状態に応じた適切な支援のために、計画を見直し、改訂を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2		・地域の行政担当者、ケースワーカー、保健師の方々等と、定期的に支援会議を行うだけでなく、都度意見交換を行い、柔軟に支援内容を検討している。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2		・訪問先の学校及び進学先の学校との移行支援会議を行い、支援の質が途切れない様綿密に打ち合わせ、方針の検討を行っている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2		・療育の専門職のみならず、キャリアコンサルタント等様々な専門家を巻き込み、助言を頂きながら、支援内容の充実を図っている。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	2		・家庭連携に留まらず、随時保護者の話を受け入れたり、利用者の状況を共有し合う体制を整えている。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2		・ペアレントトレーニング以外にも、アサーションやリフレーミング、行動療法といった事を、必要に応じ、具体的に噛み砕いてお伝えする事もある。	
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2		・親自身が抱える、悩みやストレスについても、時間を取り、聞く中で、安定や安心が得られるよう、心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		2		・今の時点では2名で、同家庭の為、今後のケース増加に伴い、実施を検討する。当センターでは、現在の所。他事業「ひきこもり支援」において、8050家族の会を実施している)
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2			
34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		2			
35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2				

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2			
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		・支援会議が、最もチームで共有できる時間であるが、家族へは、実施の都度お伝えするよう心がけている。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		・保護者と、訪問先との関係調整にも心を配っている。その時、大切なのは、子供の様子を見取っていく、専門職としての力量のように感じる。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		・訓練までには、至っていない。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2		・現在の所、身体拘束を行なうような状況はないが、状況に応じた様々な危機を想定し、安全管理を行う事を、心がけている。	